

# エコアクション21

2023 年度

(対象期間：2022年12月1日～2023年11月30日)

## 環境経営レポート



### 目次

■ごあいさつ	・・・ 1
■環境経営方針	・・・ 1
■組織の概要	・・・ 2
■認証・登録の対象組織・活動	・・・ 2
■組織図	・・・ 3
■主な環境負荷の実績	・・・ 4
■環境目標及びその実績	・・・ 4
■環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容	・・・ 5
■環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	・・・ 6
■代表者による全体の評価と見直し・指示	・・・ 6
■環境活動の紹介	・・・ 6～7

作成日：2023年12月19日

**SHINTOKU**  
新徳工業株式会社

新徳工業株式会社は昭和55年12月に創業以来、豊かな自然に囲まれたこの地（加西市）に工場を構え、金属部品メーカーとして（「ものづくり」の企業として）歩んで参りました。近年、益々クローズアップされている環境問題も一企業として無視できない状況であることを認識し、我々が事業活動を続けていくためには環境保全に取り組む姿勢が必要であると考えます。この度、環境システム（エコアクション21）の導入により、地球環境に優しい企業を目指し！新たな一歩を踏み出して参ります。今後とも、ご指導ご高配を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

新徳工業株式会社  
代表取締役 徳 保郎

## 環境経営方針

### 基本理念

当社は環境に配慮できる企業として、金属プレス加工部品の製造を行う事業活動から生ずる環境負荷の低減に努め、次世代へ豊かな自然と限りある資源を継承するために、全社一丸となって自主的・積極的に環境保全活動に継続的に取り組みます。

### 行動指針

- 1 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
- 2 二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 3 廃棄物の削減及び再資源化（リサイクル）の推進に努めます。
- 4 水使用量の削減に努めます。
- 5 化学物質使用量の適正管理に努めます。
- 6 不良損失金額の削減による、環境に配慮した製造に取り組みます。
- 7 会社周辺の美化・清掃活動を推進します。

制定日： 2022年12月1日

代表取締役 徳 保郎



## 組織の概要

### 名称及び代表者名

新徳工業株式会社

代表取締役 徳 保郎

### 所在地

本 社 兵庫県加西市坂本町914-38



### 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 専務取締役 徳 充浩 TEL：0790-48-2066

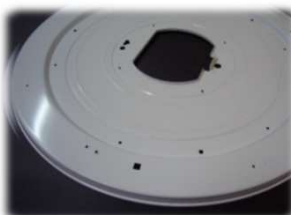
担当者 管理部部長 富上 弘樹 TEL：0790-48-2066

### 事業内容

金属材による精密金属プレス部品の製造

主要製品：車載用二次電池部品、車載部品、配電盤機器、電子ロック

LED照明器具、暖房器具、OA機器部品等の各種精密金属プレス部品



### 事業の規模

製品出荷額 4.9 億円

主要製品生産量 700 トン

従業員 25 名

延べ床面積 1800 m<sup>2</sup>



事業年度 12月～11月

## 認証・登録の対象組織・活動

登録事業者名： 新徳工業株式会社

対象事業所： 本社

対象外： なし

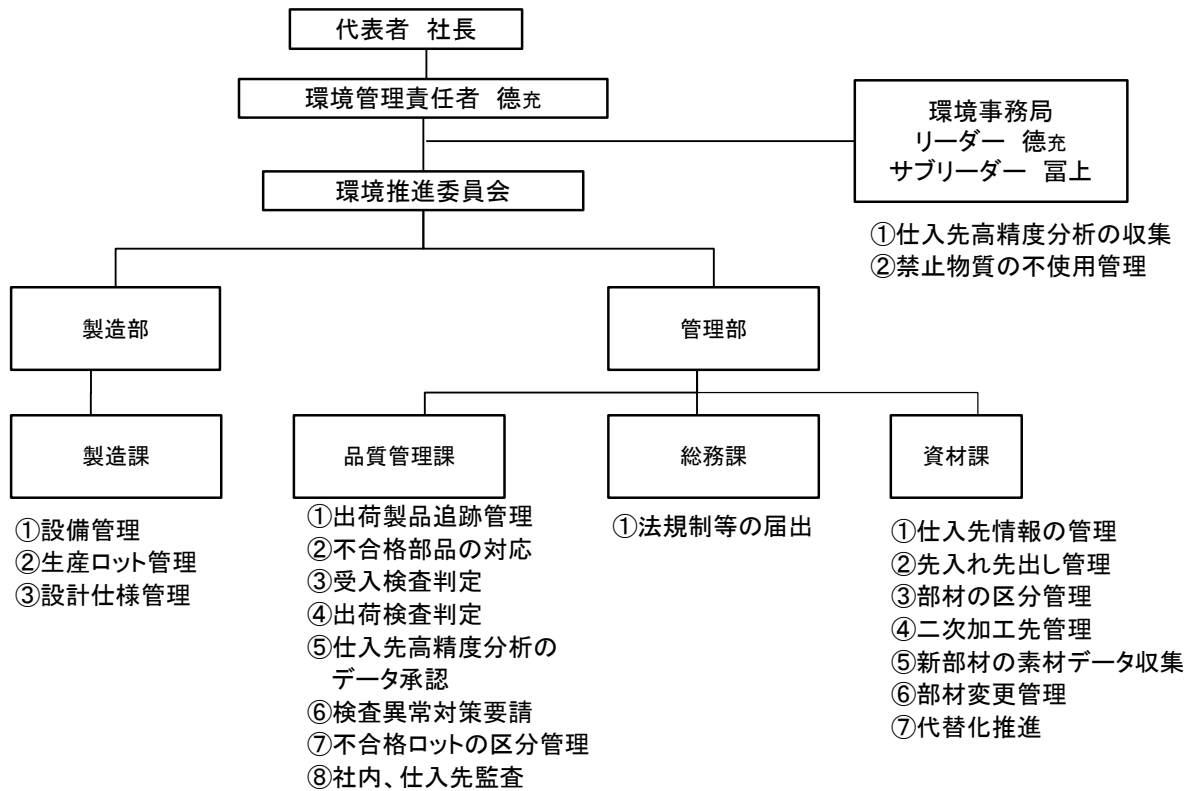
活動： 金属材によるプレス部品の製造



# 実施体制図及び役割・責任・権限表

作成者：徳 充浩

更新日：2023年12月19日



対象者	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営に関する統括責任</li> <li>・環境管理責任者を任命</li> <li>・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備</li> <li>・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知</li> <li>・環境目標・環境活動計画書を承認</li> <li>・代表者による全体の評価と見直しを実施</li> <li>・環境活動レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・禁止物質管理の監視</li> <li>・化学物質に関する異常が発生した場合、製品(部材)の出荷(使用)停止と解除</li> <li>・原因究明、再発防止の指示</li> <li>・環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>・環境活動レポートの確認</li> <li>・環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>・環境関連法規等の取りまとめ表を承認</li> <li>・環境目標・環境活動計画書を確認</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報(顧客・グリーン調達・法規制)の収集・伝達</li> <li>・環境推進委員会の、推進と運営</li> <li>・環境管理責任者の補佐、環境推進委員会の事務局</li> <li>・グリーン調達基準(最新版)の保管・管理</li> <li>・環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施</li> <li>・環境目標、環境活動計画書原案の作成</li> <li>・環境活動の実績集計</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施</li> <li>・環境負荷物質の調査・測定(必要に応じて外部に委託する)</li> <li>・環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)</li> </ul>
環境推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境活動計画の審議</li> <li>・環境活動実績の確認・評価</li> </ul>
責任者 (主任・次長・部長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自部門における環境方針の周知</li> <li>・自部門の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施</li> <li>・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成</li> <li>・試行・訓練を実施、記録の作成</li> <li>・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>



## 主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO <sub>2</sub>	167,706	141,575	142,814
廃棄物排出量	kg	7,498	6,498	7,634
一般廃棄物排出量	kg	4,118	4,208	4,644
産業廃棄物排出量	kg	3,380	2,290	2,990
総排水量	m <sup>3</sup>	1,014	361	510
化学物質(トリクロロフルン)	kg	1,740	2,030	1,740

※電力の二酸化炭素排出量換算値 0.452 kg-CO<sub>2</sub>/kWh (2022年調整後)

※二酸化炭素総排出量には、LPG使用による排出量も含む(参考) kg-kWh (2022年度)

## 環境目標及びその実績

項 目	年 度	基準値 (基準年度)	2023年		2024年	2025年
			(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>	180,347	171,329	116,668	169,526	167,722
	基準年比	2019年	95%	65%	94%	93%
売上高原単位	kg-CO <sub>2</sub> /千円	0.413	0.392	0.238	0.388	0.384
	基準年比	2014年	95%	58%	94%	93%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>	44,300	42,085	26,140	41,642	41,199
	基準年比	2014年	95%	59%	94%	93%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO <sub>2</sub>	224,647	213,414	142,808	211,168	208,921
一般廃棄物の削減	kg	6,000	5,700	4,644	5,640	5,580
	基準年比	2014年	95%	77%	94%	93%
産業廃棄物(混合廃棄物)の削減	kg	9,430	8,959	2,990	8,864	8,770
	基準年比	2019年	95%	32%	94%	93%
水道水の削減	m <sup>3</sup>	648	642	510	635	629
	基準年比	2020年	99%	79%	98%	97%
化学物質(トリクロロフルン)の適正管理	kg	3,100	3,100	1,740	3,100	3,100
		2014年	100%	56%	100%	100%
製品への環境配慮(不良損失金額の削減)	万円	408	180	159	180	180
		2014年	44%	39%	44%	44%





# 環境活動計画及び取組結果と その評価、次年度の取組内容

評価基準 数値目標：○達成 ×未達成

施策：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	次年度	評価（結果と次年度の取組内容）
電力による二酸化炭素削減			
数値目標	○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■変更なし	今年度はコロナ禍の収束により生産活動が徐々にコロナ禍以前の状態に戻ってきた。 また、省エネ設備（I777・LED）への更新により、使用電力量は大きく削減出来ているが、電気料金の急騰により毎月の支払いは増加しているため、今後も省エネ対策を継続し、使用電力の削減に努める。
・空調温度の適正化（冷房28℃ 暖房20℃）	◎	継続	
・エアコンフィルターの清掃	○	継続	
・照明器具の清掃・交換	○	継続	
・機械設備・照明、不要時の電源オフ	◎	継続	
・夜間・休日、OA機器の主電源オフ	◎	継続	
・エアホースのエア洩れ点検と保全	△	継続	
自動車燃料による二酸化炭素削減			
数値目標	○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■変更なし	来期以降、基準年度を2014年度→2019年度に変更する。 【理由】 電力と同じ理由で、コロナ禍を除いた直近の年度で、実態に則した年度に変更するため。
・エコドライブ	◎	継続	
・効率的なルート配送	◎	継続	
・積載率の向上による配送便の削減	◎	継続	
一般廃棄物の削減			
数値目標	○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■変更なし	来期以降、基準年度を2014年度→2019年度に変更する。 【理由】 電力と同じ理由で、コロナ禍を除いた直近の年度で、実態に則した年度に変更するため。
・分別の徹底、再資源化	◎	継続	
・コピー裏紙の再利用	○	継続	
・使用済み封筒の再利用	○	継続	
・印刷プレビューの確認（啓発活動）	△	継続	
産業廃棄物の削減			
数値目標	○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■変更なし	木くずについては業者回収がほとんどなので、再利用化が進んでいるが、まだ置き場を理解出来ない社員もいるので、教育を進めて行く。 廃プラスチックについては、通函の整理が出来ているので、大がかりな廃棄は発生しない。
・分別の徹底（置き場の3S活動）	○	継続	
・混合廃棄物の分解、再資源化	△	継続	
・素材別ボックスの設置・整理	○	継続	
・梱包用木材を購入先へ返却（木くずの削減）	◎	継続	
水道水の削減			
数値目標	○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■変更なし	設備の老朽化などにより、目に見えないところで水道使用量が増加してしまう事がある。 老朽化している設備については、今後、事前の点検などを実施する。
・手洗い、洗い物時の節水（啓発活動）	○	継続	
・社用車の必要最小限の洗車と洗車時の節水	○	継続	
・冬季のトイレの元栓を閉める事による配管破裂防止。	◎	継続	
化学物質（トリカレキ）の適正管理			
数値目標	○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■変更なし	基準年度と比較すると、継続した対策により使用量が減少してきているので、今後、基準年度の見直しを検討する。
・有害性物質の表示の徹底	◎	継続	
・容器の蓋の徹底	◎	継続	
製品への環境配慮（不良損失金額の削減）			
数値目標	○	□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■変更なし	新製品などの立ち上げの際には歩留まりを良くし、不良の削減と共に使用材料の効率化を図る。
・不良損失金額の削減	◎	継続	
・作業ミスによる廃棄量の削減	○	継続	
社会貢献			
・会社周辺の美化・清掃活動	◎	継続	4月と9月の年2回、会社周辺のゴミ拾いを実施しました。



# 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）	遵守
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（金属屑、廃プラ、廃ガラス、廃油等）	○
騒音・振動規制法	プレス機械、空圧機、送風機	○
水質汚濁防止法	脱脂洗浄機	○
フロン排出抑制法	業務用空調機の簡易点検・定期点検の実施	○
PRTR法	脱脂洗浄機、第1種指定化学物質使用量の報告	○
高圧ガス保安法	ボンベ類の転倒防止	○
自動車リサイクル法	社用車、廃車時の適正処理	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

## 代表者による全体の評価と見直し・指示

今年度は長く続いていたコロナ禍が明け、休業等も無くなり生産活動がコロナ禍以前に戻ったが、受注量としてはまだまだ完全復活とはいっていない。  
しかし、反比例して電力やガソリン・軽油、材料など様々なものが高騰しており、社内における省エネ意識の浸透レベルを上げる必要がある。  
来期は継続して省エネルギー化を進める計画を立てており、エアコンの一部入れ替えを実施する。

なお環境方針、環境目標・計画、実施体制については、現状を継続し運用する

2023年12月19日 代表取締役

穂 保 郎

## 環境活動の紹介

■節電・節水などの啓発活動  
啓発ポスターを掲示して呼びかけをしています。



■印刷プレビューの確認  
啓発ポスターを掲示し、ムダな印刷をしないように呼びかけを



■コピー用紙（裏紙）のリサイクル活動  
不要となったコピー用紙を収集し、裏を再利用するようにしています。



#### ■環境教育

当社の環境への取り組みについて、理解を深めるために教育を実施し、従業員の意識の向上に努めています。



#### ■再資源化への取り組み

分別して再資源化に取り組んでいます。



#### ■避難訓練

年に1回、避難訓練を実施しています。



#### ■会社周辺の清掃活動

年に2回、従業員全員で会社周辺の清掃を行っています。



私たち、従業員全員でエコアクション21の環境活動に取り組んでいます。

